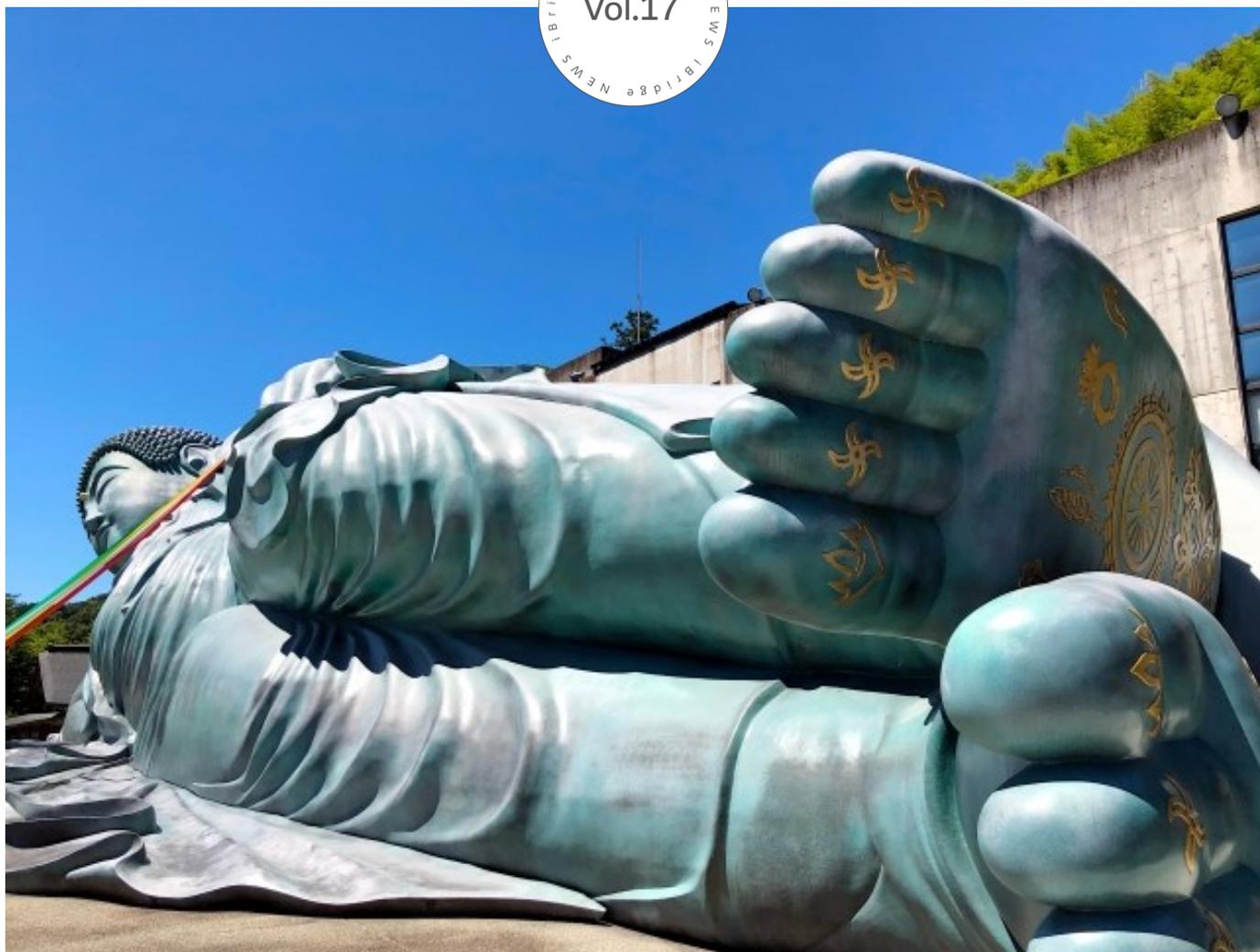




外国人技能実習制度の“今”を伝える

iBridge

アイブリッジ通信



アイブリッジ協同組合では、新型コロナウイルス感染症への対策として、「事前に実習生・職員全員のPCR検査」を実施し、「陰性」の場合にのみ配属・訪問することを徹底しています。受入れ先の皆さまに安心していただけるよう、細心の注意と最善の努力を続けて参ります。

実習生へのアンケート(3年度は?)

41

回答数

100%

日本に残りたい

今の施設に残りたい

Q 日本にやってくる“ミャンマー人技能実習生” どんなイメージ??

年齢は、
23歳~28歳
くらい?

お金の大半を
家族への仕送りや
寄付に!

田舎の
高校生みたいな
純朴で素直な
女の子!

家族は農家、
そして内職質素な
生活が好き

ほとんどの子は
学校を卒業した
ばかり!

介護は
天職!
大家族の中で
培われた!

A 実際はこんな感じです

当組合の
ミャンマー人技能実習生



Point
1

1/3は30歳以上!

Point
2

男女比は
男性:女性=3:7
男性も結構いるんです。

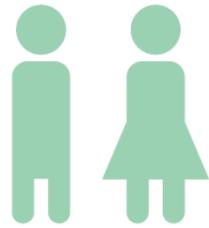
ミャンマー人技能実習生のことを「実習生の子」なんて呼ぶことがありますが、意外と大人の男女です。JKやJDのようなイメージを持ちがちですが、実際は、恋愛にとどまらず結婚も考える年頃なんです。そんな若者が3年間日本にいる間に恋愛禁止！なんてありえないわけです。実習生たちは子どもの頃に軍事政権から民主化、そしてまた軍事政権へ！ですから当然、政治にだって興味があるんです。家族や親戚に軍人がいる人も少なくないので、そこは、複雑なんです。ミャンマーでは、ほとんどの実習生が大家族で暮らしています。そのため高齢者へのリスペクトは、日本人よりもすごいんです。でも、重度の障がいを持っていたり、要医療の高齢者を介助した経験がある実習生はそんなに多くありません。高齢者への思いはあっても、日本に来て、これはきついと思っている実習生も少なくありません。

技能実習生のホント

純朴・質素・儉約・奉仕？

恋愛を楽しみ、結婚だってしたい！そんな年頃の実習生。せっかく稼いだ給料を家族への仕送りや、僧侶への寄付だけで満足！そんなはずはありません。友達と遊びに行きたいし、美味しいモノも食べたいし、おしゃれしてデートだってしたいんです。なのに新型コロナ！結構ストレスが溜まります。感染防止で息が詰まる。クーデター下の国の家族も心配。でも自分の人生、日本での体験をもっと楽しみたいのです。

だから3年間の技能実習が終わったら他の日本も見たい。付き合い始めた彼氏の近くで働きたい。情報発信地である都市部に近づきたい！日本人と同じですね！



実習施設に不満？誤解？

そうはいつでも、仕事では、“ド”素人！だから結構びくびくしています。研修で習った通り「おはようございます！」と元気に挨拶しても、忙しい先輩職員から返事が返ってこない。「もしかするとミャンマー人が嫌い？」ついついそんな風になってしまうこともあります。相手が挨拶しなくても、そういう人なんだ、こちらがきちんと挨拶すればいいじゃないか！そんな風に考える余裕もないことも多いのです。日本で介護の技能を身に着きたい！それは当然ですが、それと同時に、日本の社会も学んでいます。ですから、実習生は、日本人を介護を先生ではなく、職場の先輩として見ています。介護の技能だけではなく、社会人、そして大人としてのふるまいにも敏感なのです。

未来の自分はわからない！

日本人もそうですが、いつでも未来の自分を描きながら暮らしている人もいれば、自分の方向性を決めかねている人もいます。実際には、3年間を終えてどうしたら良いのか、決められない、決めつつもりだったけどすぐにぶれてしまう。我々日本人でも進路や将来設計は、何歳になっても選択を迫られるテーマですよね。

介護事業会社 元社長より

外国人技能実習生との付き合い方・活かし方

外国人技能実習生、特に介護の分野は、他分野に比べてもかなり有効なシステムとして成長しています。そんな中で、人材不足を課題として抱えている介護事業者にとって、3年間で日本語を教え、介護を教え、少し立派になったら別の施設へ行ってしまおう、そんな場面に直面し、「せっかく教えたのに、教え損！」「ミャンマー人には義理はないのか！」などの憤りの声も聞こえてきます。ところで日本人ではどうでしょうか。丁寧に指導しても、やはり辞めたい人は辞めてしまいます。ミャンマー人と日本人も結局同じだとしても、ミャンマー人という人財が、たとえ一時期でも仲間に加わるメリットは大きいはず。アイブリッジのデータでは、30代後半の若者とは言えない年齢でも、老々介護を指摘されるほど高齢化が進む日本人介護職の中、明らかな若返りです。そんな中で、受け入れた実習生が、三年後に全員が残らなくても、一人でも残った人材が、その後の核となり、良いチームを作り上げてくれるはず。例えば、はじめは偶然入ったパソコンに詳しいスタッフが、後に情報システム部を率いて法人全体の効率を高めていく。こんな経験をした法人も少なくないはず。ミャンマー人は新しい可能性を持った“職員”“人財”として活用を考えていきましょう。預かっている実習生ではなく、仕事の仲間として。そして、巣立っていった実習生も、施設の卒業生としてネットワークを拡げる財産とかがえてはいかがでしょうか。

／今月の実習生紹介／

ユーパー チャン
Yupar Chan さん (国籍:ミャンマー)
南淡千遙会・ケアホーム南淡路

入社したばかりの時は利用者さんとのコミュニケーションが難しかったです。方言や高齢者の話し方になかなか慣れなかったです。介護の仕事は大変ですが、とてもやりがいのある仕事だと思います。おじいさん、おばあさんたちの日常生活を見守ること、支援することはとても楽しいです。先輩や同僚の方々もみんな優しく、仕事の内容などをいつも丁寧に分かりやすく説明してくれます。

休日は日本語の会話力アップのために、YouTubeの動画を見て勉強しています。実習3年終わった後も、介護の仕事をするつもりです。

日本食はほとんど食べられますが、刺身は苦手です。一番口に合う食べ物はカレーです。そして、日本で行きたい所は東京スカイツリー、東京タワー、鎌倉大仏、富士山、沖縄と北海道です。やってみたいことはスカイダイビングとスキューバダイビングです。



iBridge
cooperative association

アイブリッジ協同組合

所在地 : 〒103-0027

東京都中央区日本橋3-13-5 KDX日本橋313ビル9F(8月30日に移転しました)

T E L : 03-6228-4196 FAX:03-6228-4896

U R L : <https://www.ibridge.or.jp> mail: info@ibridge.or.jp



2022年1月25日発行